

平成 19 年度第 3 回学術情報ネットワーク運営・連携本部会議議事概要

1. 日 時 平成 20 年 2 月 5 日 (火) 10:30~12:30

2. 場 所 国立情報学研究所 22 階会議室

4. 議事内容

(1)平成 20 年度概算要求について

坂内本部長から、資料 3 に基づき、平成 20 年度概算要求の内示状況について報告があった。来年度は CSI 事業も PDCA サイクルの C (チェック) のフェーズに入り正念場を迎えるため、着実に推進していきたい旨説明があった。

(2)平成 20 年度 CSI 委託事業について

安達委員から、平成 20 年度 CSI 委託事業について、今年度と同規模で実施することを検討している旨、e-Science についてはより成果をアピールできるものに絞り込んで実施する方向で、今後七大学情報基盤センターと相談しながら進めていきたい旨の説明があった。

(3)SINET3 の運用状況について

事務局から、資料 4 に基づき、SINET3 の運用状況について報告があった。これに関連して、坂内本部長から、VPN 機能や L1 オンデマンド等、限られたネットワークリソースを利用者間でシェアし合うことで、有効活用をはかり普及に努めていきたい旨の発言があった。

(4)SINET 利用推進室の活動報告

NII の阿部准教授から、資料 5 に基づき、SINET 利用推進室の活動報告があった。続いて、NII の漆谷教授から、資料 6 に基づき、VPN サービスの利用推進について説明があった。なお、資料 6 については、図中にある“グリッド研究”を“グリッド運用”に修正することとした。これらに関連して次の意見があった。

- ・説明会参加者の割合は、基盤センターとエンドユーザでどのくらいだったか
 - 9:1 くらいの比率だった。今後はエンドユーザ向けに個別訪問やミニ集会を企画していきたい。
- ・なぜ VPN の要望が多かったのか。VPN はファイルアクセスの際の秘匿性を確保する手段としては利用できるが、グリッドでは帯域保証がネットワークへの主要要件である。
 - 事例を紹介しながら説明したのがよかったのではないかと考えている。VPN と QoS の組み合わせを期待するユーザも多いと思われる。
- ・セキュアに作業を共有できる空間が無数にあるというイメージで、VPN を初歩的なグリッドとして機能できないか検討を進めているところである。

(5)L1 オンデマンドサービスの試行運用開始について

NII の漆谷教授から、資料 7 に基づき、L1 オンデマンドサービスの試行運用開始報告があった。これについて次の意見があった。

- ・遠隔講義や映像配信等で、多くの大学が必要なときに譲り合って使っていけるようにしたい。
- ・非圧縮 HDTV 伝送装置の価格はどのくらいか
 - 2 台で 500 万程度である。

(6)ネットワーク作業部会報告

安達委員から、資料 8 に基づき、ネットワーク作業部会の活動報告があった。VPN については、より使いやすい形で提供できるよう、今後制度面の見直しをはかっていく旨の説明があった。

(7)認証作業部会報告

NII の曾根原教授から、資料 9 に基づき、認証作業部会の活動報告があった。平成 21 年度以降のサーバ証明書発行事業化については、大学から継続してほしい旨の要望が高いことを踏まえ、平成 20 年 10 月までに結論を得ることとなった。また、坂内本部長から、UPKI 事業は、平成 20 年度までの 3 年計画であるため、今後の概算要求については、これまでの実績を踏まえた提案を行い、文科省と相談しながら検討していきたい旨の補足説明があった。

(8)グリッド作業部会報告

青柳委員から、資料 10 に基づき、グリッド作業部会の活動報告があった。これについて、次の意見があった。

- ・阪大 - 東工大連携のような運用上の連携を行うと、課金制度に直結してしまう。単に計算機がリソースとして使えればよいというのではなく、オペレーションレベルできちんと連携できるかどうか、ユーザアカウントや利用負担金の担保はどうなっているか等、システム上どうチェックされるのか気になる。
 - 利用負担金制度の整合性がとれるのかも含めて検証したい。その上でどんな問題があるのか考えたい。また、アカウント発行方法について、各センターの内規に抵触しないのかも検討したい。
- ・SINET3、UPKI、グリッド共に、技術でない局面に入ってきていると感じる。アイデアを持っている人だけが使えるのはよくない、使ってもらえるための利用プロジェクトを大学組織全体のアクティビティとして立ち上げるなど、利用モデルを具体的に出していく必要があるのではないか。
 - そのとおりである。新たな機能が何が変わるのか、皆が連想できる身近な利用法を示していくことが必要である。

- ただし、個別の機関の立場もわきまえてモデルを作らないと、あれが足りない、これが足りないなど、絵に描いた理想論になってしまう。
- ・ 皆の足並みが揃わないとやらない、というのではなく、まずやれるものからやっていき大枠を動かしてみせることが必要。一度、各部会主査に集まってもらい、「デブロイ部会」といった日常的にステアリングする機動性のある部会を検討したい。

(9) 高等教育機関における情報セキュリティポリシー推進部会報告

曾根委員から、資料 11 に基づき、情報セキュリティポリシー推進部会の活動報告があった。あわせて、内閣官房情報セキュリティセンターからの表彰について報告があった。

(10) TEIN2/3 関係報告

NII の山田教授から、TEIN3 の現況について、1 月の APAN ハワイ会合を踏まえて報告があった。また、後藤委員からもフォローアップの説明があった。

- 以上 -